O10-3

体幹装具の採型を異性が行うことの是非について —特発性側弯症の採型に対するPOへのアンケートから—

キーワード：思春期　体幹装具　アンケート調査

○池田未羽(PO)[1)]、新木茜(PO)[2)]、猪狩美貴(PO)[3)]、徳井亜加根(PO)[4)]

1）株式会社松本義肢製作所
2）株式会社澤村義肢製作所
3）株式会社佐々木義肢製作所
4）国立障害者リハビリテーションセンター学院

１．はじめに

水着で隠れる身体部位のことを「プライベートゾーン」と呼び，親を含めて誰にも触らせてはいけない部位として就学前から教育することが推奨されている．医師がプライベートゾーンの診察を行う場合，患者と同性の看護師を立ち会わせることも増えてきており，女性医師が対応した方が良い診療対象として思春期外来を１位に挙げた調査報告[1)]もあることから，思春期の患者には特に性への配慮が必要と考えられる．しかし，特発性側弯症に対する装具の採型は，患者と同性の義肢装具士（以下PO）が行うとは限らず，思春期の患者にとって心理的負担が大きいことが考えられる．側弯症装具の採型をすべて同性の PO が行うことは困難でも，異性のPOが採型する際は同性の立会いを義務付ける，採型時の着衣について羞恥心を軽減できるように見直す等の対応も検討すべきであると考えた．

そこで本研究は，特発性側弯症患者の採型における実態および問題点を明らかにすることを目的にアンケート調査を実施した．

２．研究の方法

２－１．対象，方法

対象者は PO とし，Google フォームを使用した Web アンケート調査を実施した．対象者の募集方法は機縁募集とし，国立リハPO・OB会に協力を依頼の上，アンケートのURLを記載した研究参加依頼書及び研究概要説明書を会員に送付した．会員に対しては，PO・OB会に限らず広くアンケート調査への参加を呼び掛けてほしい旨の依頼を行った．アンケート実施期間は 2020年10月２日から2020年11月14日までとし，分析には統計解析ソフトEZR（ver.1.42）を使用した．

２－２．調査項目

基本属性として，「年齢」，「性別」，「資格取得後の年数」，「勤務先PO数」，「勤務先の女性POの割合」，「勤務先の所在地」を質問した．採型における実態については，「採型時の患者の着衣」，「患者が異性の場合に患者と同性スタッフや保護者の立ち会いを求めるか」，「異性を採型する上で生じた困難」を質問項目とした．

PO が認識している採型時の問題点や解決策を明らかにするために，「採型時の着衣に対する問題意識の有無」，「患者と異性のPOが採型することの是非」，「患者と同性の PO による採型を必須条件とすることは可能か」について質問した．

３．結果

147名（男性111名，女性36名）から回答を得た．採型時の患者の着衣について，90名（70%）が「心理的負担をかけている」と認識していた．また，ブラジャー非着用で採型を行うPOは73名（57%）と過半数を占めた．ブラジャー着用で採型を行うPOは「患者の心理的負担」，ブラジャー非着用で採型を行うPOは「適合」を重視している傾向があった．採型については，「同性が採型した方が良い」と考える PO は 127 名（86%），問題点として最も多く挙げられたのは「異性が採型を行うこと」82名（77%）だった．また，同性スタッフの「同席を求めづらい」12名（13%），「わいせつ行為と疑われるリスクを認識したことがある」37名（33%）となった．「同性が採型した方が良い」と回答したPOのうち94名（74%）が「同性POの採型を必須条件とすることは難しい」と認識していた．要因として，「女性POの不足」68名（72%），「採型者の知識・技術の不足」39名（41%）との回答があり，解決策として最も多く挙げられたのが「女性POの意識改革、教育活動」66名（62%）となった．

４．考察とまとめ

ブラジャー非着用での採型が過半数を占めた一方，着用して採型するPOが43%を占めたことは，ブラジャー非着用での採型理由として最も多く挙げられた「適合」に疑義を生じさせる結果となった．科学的根拠を説明できなければ，POの性別に関係なく，ブラジャー非着用での採型を見直すことも業界として検討すべきであろう．

また，86%のPOが「同性が採型した方が良い」と考えているにもかかわらず，課題解決には時間がかかるとも考えていることが明らかとなった．課題の解決には女性POの活躍が重要であり，メンター制度やリカレント教育等を取り入れるほか，女性POが主体となって問題解決を図るような意識改革も必要であると考える．

謝辞

本研究を行うにあたり，質問紙作成のための予備調査には，男女問わず多くの皆様から丁寧で貴重なアドバイスおよび激励をいただきました．厚く御礼申し上げます．また，国立リハ PO・OB 会の皆様をはじめ，アンケート調査に快くご協力くださったすべての皆様に対し深謝申し上げます．

本研究は令和２年度国立障害者リハビリテーションセンター学院義肢装具学科卒業研究として実施した．

参考文献

1）間壁さよ子，産婦人科診療における女性医師の役割，日本産科婦人科學會雑誌 58(9)，242-248（2006）